

強み

弱み

空き家の増加

機会

成長戦略

 【強みで機会を活かす方策】

検討終了

改善戦略

 【弱みを克服して機会を逃さない方策】

◆空き家の利活用

まず、空き家の実態調査（所有者、周囲の影響、再利用の判断など）を行う。一人暮らしの高齢者は子どものもとに移住し、空き家となるケースが多い。そういった空き家を利活用する。

- ◆高齢者と若者のシェアハウス
- ◆地域コミュニティの拠点として利用
- ◆中古住宅購入でリフォーム助成金、または、ニーズに沿ったリフォーム（省エネ・ゼロエネ化、バリアフリー化）の実施
- ◆これらの積極的な宣伝を全国に向け行う

ライフスタイルの多様化

牧歌的な風景と丘陵に広がる農地の風景が一度に堪能できる北海道らしい風景

地域公共交通（特にバス・JR）に対する住民の満足度の低さ

脅威

回避戦略

 【強みで脅威を克服する方策】

- ◆牧歌的雰囲気合う企業の誘致
- ◆フィルムコミッションの推進
- ◆エネルギー危機への備え・持続性のある町をつくるための環境教育

誘致を想定しているのは、デザイン、アニメなどのクリエイティブな企業
 また、牧歌的雰囲気と農業畑作風景はロケ地としても活用できるものであり、観光資源にもなり得る。
 そのためには、これら景観を保全することが必要であり、太陽光パネルなどにより景観が崩れないようにすることが重要である。当然再生可能エネルギー活用（バイオマスや廃棄物の活用など）を推進するうえでは、景観を守りながら持続性のあるまちを目指さなければならない。残すべき自然の洗い出しが極めて大切であり、それらを支える環境教育をしていく必要性がある。

- ◆安全安心して暮らせる環境のPR、災害に強いまちづくり

改革戦略

 【弱みを克服して最悪の事態を招かない方策】

◆公共交通のニーズ調査

公共交通に対するニーズの多様化により、JRの乗車率アップには限度がある。そこで、変わりつつある公共交通のニーズを調査し、住民がどのような場面で不便であるかを確認することで、新たな交通網形成などを検討する。
 具体例として、JRとリンクした交通の工夫し、病院・スーパーへの接続などが挙げられる。

- ◆バスの小型化
- ◆デマンドバスの利用簡素化
- ◆自家用車の共同利用策を町・企業・町民で立ち上げ
- ◆地域を越えた支え合い活動
- ◆カーシェアの企業化
- ◆隣組の復活による乗り合わせ（ライフスタイルの共有）

人口減少社会の到来

自然環境問題の深刻化

強み JR・高速道路・国道など公共交通軸が存在し、交通インフラ整備率が高い
 牧歌的な風景と丘陵に広がる農地の風景が一度に堪能できる
 北海道らしい風景

弱み 道路・橋梁の老朽化

機会

ライフスタイルの多様化

成長戦略 【強みで機会を活かす方策】

◆住みやすく通勤も楽！PR作戦

安平町の苦手分野「PR」
 牧歌的な風景・環境にありながらも住みやすいアピールポイントをインターネット・SNS
 を活用しPR

- ◆札幌圏、通勤圏、買い物等施設までの距離・時間のPR
 札幌まで〇〇分、空港まで〇〇分など
- ◆空き家、中古住宅を有効活用⇒移住に関するPR

安全・安心に対する意識の高まり

改善戦略 【弱みを克服して機会を逃さない方策】

未検討

札幌・千歳・苫小牧など都市に至近でありつつ豊かな自然のある「ほど良い田舎まち」

脅威

人口減少社会の到来

回避戦略 【強みで脅威を克服する方策】

◆町民や子どもたちの手による自然環境保全運動

町内小中学生とともに安平川の保全活動を行い、自然環境の良さをPRするもの

- ◆安平川における魚卵放流などの環境保全
- ◆清流や池、沼に棲むザリガニ、小魚、エビ、カニ、ホタルなどの個体確認や周辺保護
 (開発規制区域)

改革戦略 【弱みを克服して最悪の事態を招かない方策】

検討終了

強み

多種多様な農業（地産地消が可能でPRになる）

弱み

体験型の観光コンテンツの不足

機会

安全安心に対する意識の高まり

成長戦略 【強みで機会を活かす方策】

- ◆生産者の顔の見える農業（農直、農村レストラン、産直ツアー SNS・HP活用）

◆農直・農村レストラン
 ◆SNS・HPを活用した農産物PRなどの情報戦略
 ◆有機野菜・無農薬野菜のブランド化
 これらを展開し、農産物の生産者の顔が見える化・詳細情報の確認を可能とすることにより安心して購入できる場の提供となる

◆産直ツアー
 首都圏から生産地である安平町に来てもらい、収穫体験のみならず学習の機会としたツアー。ツアー参加者を対象とした勉強会などにより知識をつけてもらうことにより、さらなる安全安心に対する理解が深まる。

新しい公共の台頭

改善戦略 【弱みを克服して機会を逃さない方策】

- ◆観光協会を主体としたコンテンツの開発

◆複合型体験
 農業、ウィンタースポーツ、カヌー体験などのコンテンツは、単発では弱い。しかし、複数の組み合わせることにより魅力が拡大する。
 例) 複数の収穫体験 + α要素（収穫物の調理など）

◆収穫体験マップの作成
 町内のどこで何が収穫できるかが一目でわかるマップの作成

地域内に雇用があり、昼夜間人口比率（106.7%）が全国174位

・アンケートでの商業振興への住民満足度の低さ
 ・商店事業主の高齢化と後継者不足が顕著（10年後の事業継続に不安）

脅威

人口減少社会の到来

回避戦略 【強みで脅威を克服する方策】

- ◆子育て環境サポートセンターの設置（住宅、企業内託児所、ベビーシッター、晩御飯）

町外からの通勤者を取り込むには、子育て世代の労働環境整備が必要
 これら取りまとめるサポートセンターを設置することにより以下のサポートの総合的な対応を可能とする。

◆住宅
 ◆企業内託児所
 単独では難しい企業内託児所を複数企業により運営、子どもを安心して預けられる場所の提供。
 ◆ベビーシッター
 一時預かりサービスの充実化
 ◆晩御飯
 仕事で忙しい母子家庭や若年層をターゲットとした給食サービスや惣菜の販売などで食事面をサポート
 ◆町内企業を対象としたヒアリング
 町外者のニーズ、実態調査をすることにより求められるサービス・環境を明確化

社会構造等の変化と消費者ニーズの多様化

改革戦略 【弱みを克服して最悪の事態を招かない方策】

- ◆新規コミュニティビジネスの検討

後継者問題を考える前提として、事業が成り立つことが求められる
 問題点として、どのような店なのかわからない、見えないことが挙げられる
 また、町外者も顧客として取り込んでいくことも事業成立に大きく左右する

◆入店しやすい仕組みづくり（ニーズ調査、口コミ等の情報発信による利用促進策）
 ◆複数店舗が入る複合型施設として起業

強み 地域コミュニティによる見守り活動など、地域独自で高齢者対策を実施

弱み

機会

地域課題を解決するビジネスへの期待

成長戦略 【強みで機会を活かす方策】

～ボランティア・ビジネスに関する考え及び方針について～

戦略までに至っていないが、地域コミュニティによる見守り活動・高齢者対策の実施という強みがビジネスにどのように結びつくかについての考え方を議論した。

まず有償・無償関わらず「ボランティア」と名の付くものと、労働は別のものであるということ意識しなければならない。
ボランティアというのは、する側の気持ちにより行われるもの。よって、やるのも自由やめるのも自由である。労働は対価や責任がありそうはいかない。
福祉の大きな課題である生活を支える・命をつないでいくことに対して、自由にやめられるボランティアを活用することは難しいと考える。必要な対価を払う労働の補助的なものとして捉えなければならない。

地域課題を解決するために新たな事業体を立ち上げることは、かなりのエネルギーを要し考えづらい。しかし、町の現状として、シルバー人材センターは、高齢者の活躍だけでなく、地域課題解決への可能性があるため、これらの延長線上で解決されていく可能性はあるのではないだろうか。

改善戦略 【弱みを克服して機会を逃さない方策】

検討終了

コミュニティ活動が未だに機能しており、地域見守り活動など行政の手が行き届かないサービスを町民が支えている

脅威

買い物難民の増加

回避戦略 【強みで脅威を克服する方策】

未検討

改革戦略 【弱みを克服して最悪の事態を招かない方策】

検討終了

強み

コミュニティスクールや教員連携体制、学社融合体制が確立し、幼小中高の連携がなされている

弱み

各学年が1学級運営であり子どもの競いあう精神の醸成が困難

機会

安全・安心に対する意識の高まり
情報通信技術の活用へのひろがり

成長戦略 【強みで機会を活かす方策】

◆ICTの活用

- ◆町内限定のSNS
スマートフォンアプリを活用した情報発信
保護者や町民を対象とした、スピーディな情報発信が可能

◆防災教育の推進

- 地域住民、関係団体の協力
実例) 遠浅小学校で防災キャンプ

情報通信技術の活用へのひろがり

改善戦略 【弱みを克服して機会を逃さない方策】

◆学校間交流

- ◆他市町村の学校や園とのICTを活用した交流（移動不要）
- ◆町内学校間の長期交流通学
例) 早来小学校⇔追分小学校 地域を活用し学校間合宿の実施
- ◆町内（早来・追分）の小中学校が行事やスポーツ大会等でできるだけ交流する
例) 学校対抗運動会⇒学校行事として全員参加

◆ICT教育の推進

- ◆千歳科学技術大学との連携やIT企業の誘致

誘致企業会が追分高等学校と連携し、就職支援など道内でも例を見ない積極的な活動を展開

合計特殊出生率の低さ

脅威

全国的な少子高齢化の進行

回避戦略 【強みで脅威を克服する方策】

◆追分高校存続に関連する施策

- ◆コミスクの導入
- ◆町内小中学校への情報発信（進学就職先の紹介）
- ◆町内に留まってもらうための資格取得等支援（福祉、子育て関連の仕事）
- ◆「就職率100%⇒5年後の離職率0%」などを目標とし、一人ひとりに合った就職支援をする。
- ◆給食提供（センター以外）
- ◆役場・農協・銀行など地元就職枠
- ◆就職先として魅力ある企業があることをアピール

全国的な少子高齢化の進行
人口減少社会の到来

改革戦略 【弱みを克服して最悪の事態を招かない方策】

◆婚活支援

- ◆地域おこし協力隊、有償ボランティア、おせっかいおばちゃんの利用
- ◆若い人同士と一緒に何かをする機会の創出

◆多子世帯への支援（住宅、金銭面）

強み

弱み

自治会・町内会役員の担い手不足

機会

成長戦略

 【強みで機会を活かす方策】

検討終了

「協働・参画型」のまちづくりへ

改善戦略

 【弱みを克服して機会を逃さない方策】

◆自治会・町内会活動の担い手不足解消

まずは、自治会・町内会の存在意義を再確認することが必要である。
また、役員はやることが多いため、負担軽減のための対策を講じる必要がある。
将来的に再編といった話もあろうかと思うが、安易に自治会の再編をするのではなく、自治会がやることの整理、見直しをすることから始まるべき。

- ◆転入者・若い世代の自治会活動参加のきっかけづくり
必要不可欠な防災をきっかけに進めることや、イベント開催日の検討など参加しやすいきっかけが必要
- ◆掌握範囲の見直し（役職数・役員の事務見直しによる負担軽減）
- ◆複数自治会による行事の共同実施（重複する事務を省略。子ども会との合同開催）
- ◆地域サポート制度の充実

空き家の増加

脅威

回避戦略

 【強みで脅威を克服する方策】

検討終了

全国的な少子高齢化
人口減少社会の到来

改革戦略

 【弱みを克服して最悪の事態を招かない方策】

◆空き家の利活用

高齢者が持ち家を維持するのは困難であり、今後ますます空き家が増える。
終活ができる施設があることを前提として、空き家を有効活用を検討

- ◆空き家有効活用のための補助金制度導入
中古住宅購入時や企業が空き家を社宅として利用する際に助成するもの。これらは定住対策にもリンクする。
- ◆住宅情報の一本化や情報発信
町ホームページ、あびらチャンネルの活用、専門家の配置